

保育者の精神衛生(二)

西 本 脩

四、理想的保育者の資質

どんな保育者がよい保育者であるか、どんな保育者がよくない保育者であるかを決めること、又どうすれば保育者はよりよい保育の効果を挙げることが出来るかを教育心理学の立場から研究することによって、理想的な保育者のそなえるべき資質が何であるかと云う問題が明らかになったならば、保育者を養成する側の者、保育者の採用選択をする側の者にとっては、一つの評価の基準を得ることになり、これから保育者にならうと志している者や現に保育の仕事にたずさわっている者にとっては、自分が保育者になること、或いは保育者としての仕事を続けることが正しいか否かということや自己判断する為の標準となるでしょう。又自分がよりよい保育者となる為には、どの様な点を改める必要があるかと云うことについての指示となり、目標ともなるでしょう。

理想的保育者の資質を決めるについて、参考にするべき方法は三つあります。(文献4)第一は演繹的方法で、これは保育の本質から理想の保育者の資質を決めようとするものです。第二は帰納的方法で、これは保育の実際から出発して、理想の保育者の資質を決めようとするものです。勿論、理想的保育者とされる者も、それを見る者の立場によって必ずしも同じではありません。幼児の立場から、或いは保育者を監督する立場にある園長、指導主事等の立場から、或いは幼児の保護者やその地域社会の人々の立場から、或いは保育者自身の反省の立場からと云う様に、種々の場合が考えられますがその目的としている所は、実際に成功している保育者はどのような資質を持っているか、保育者として失敗した原因はどんな資質によるのかを調査しようとするもので、多くは統計的方法によって行われています。第三は歴史的方法で、これは歴史上に大保育者として名を残している著名な人々(例えばベスタロッチ、フレールベル等)

について、その人物や心理的特性を、伝記なり、自叙伝なりを参考として、分析的に蒐録して行く方法であり、又保育理論家や保育実務家が保育者の資質について発表した論説を比較検討することもこの方法に属します。

これらの三つの方法は、それ／＼長所を持っていますが、それと共に、避けることの出来ない欠点も持っているのです、その中の一つの方法だけによって、一方的に、理想の保育者はかく／＼でなければならぬと決めてしまうことは危険です。どの方法にも偏らずこれらの方法がそれ／＼の立場において与えてくれる多くの示唆に富んだ資料を参考として総合的に考察することが必要です。勿論、完全な理想の保育者の資質を決めることは不可能でしょう。たとえ決めることが出来たとしても、私達は完全な理想の保育者になることは出来ないでしょう。けれども多少でもよりよい保育者になろうとする者は、その時代の、その社会の理想の保育者となる為に、その修養の目標として、理想の保育者の資質について絶えず研究しなければなりません。

私は理想的保育者の資質を決める為の一つの参考資料として、帰納的方法による調査を行いました。それは幼稚園の園児の保護者一〇〇〇人について、「どんな先生をよい先生と思うか」、「どんな先生をよくない先生と思うか」と云う問を發し、その回答を得、それによって彼等の望む良い保育者がどの様な者であるかを調べたのです。詳細は(文献5)を見て頂くと致しましょう。

さて、保育者として望ましい性格とか資質とか云う場合、それは決して、所謂「先生型」^{タイプ}「保母型」^{タイプ}と云われる様な、版でおした様なきまりきった一つの規格型があるとか云うことを意味するものではありません。およそ保育者として一番大切な性格或いは資質は、何よりも先ず「人間らしさ」と云うことでしょう。人間らしい人間を作ると云う保育においては、人間らしい保育者と云うことが何よりも大切です。「先生も人間である」とか、「先生となる前に、先ず人間でなければならぬ」と云う様なことが云われるのも、この辺の気持を表わしたものでしょう。それでは、人間保育者として、精神衛生の立場から見た場合、一般的に云って、どんな資質が要求されるでしょうか。

理想の保育者は偏った人ではなく、調和のとれた人であり、横道に逸れた人ではなくて、正道を行く人です。又健康で能率的に働ける身体を持ち、悪意や偏見を持たず、安定した情緒の持主で、楽しく明るく、幼児と共に生活し、幼児と共に遊ぶことの出来る人でなければなりません。更に人間らしい保育者は、象牙の塔に立籠って社会から孤立する人ではなく、物事に対して、社会の人々と共通な関心や理解を持ち、科学や芸術に関する一般的な教養を持ち、又健全な趣味や娯楽を嗜む人でなければなりません。特に幼児を指導する保育者としては、幼児を愛し、幼児に関心を持ち、幼児をよく理解し、子供の発達段階を知り、幼児を尊敬する人でなければなりません。この様な保育者の指導によってのみ、幼児は身体的にも、知

的にも、情緒的にも、社会的にものび／＼と成長発達することが出来ます。

およそ保育者と幼児との人格的關係を大きく分類しますと、次の三つに區別されるでしょう。

1 保育者と幼児との間が、相互の敬愛と信頼によって、よく結ばれている場合

2 保育者は幼児を疑い、幼児は保育者を恐れ、両者の気持が離れてしまっている場合

3 保育者も幼児も、格別お互の存在を念頭におかず、お互に無關心の状態である場合

この三つの型は、勿論、それぞれ最も極端な型を示したものですから、実際の場合においては、この三つが色々な程度で混合しているでしょう。この中で、第一の型が、最も望ましいものであることは、云う迄もありません。幼児が保育者に対して無關心であったりまして、保育者から離れてしまふ様では、もはや保育者としての第一の資格を失つたこととなります。

それでは、どの様な場合に、幼児は保育者から離れて行くのでしょうか。何よりもいけないのは、幼児にとって、唯恐しい保育者になることです。この様な保育者の前では、幼児は小さくなって、思うことも云えず、したがって消極的な行動をとる様になります。この様な保育者に受け持たれている間は、幼児はおじ／＼した落ち着きのない性格をうえつけられ、裏表のある行動をすることを学ぶわ

けでして、一生の中の最も大切な時期を、日陰で過すことになります。殊にいけないことは、保育者が自分の感情を統制出来ないで、自分の不平や不満のはけ口を幼児に向けて、あたりちらす様な場合です。これでは、幼児は安心して保育者に対することは出来なく、精神的に極めて不健康な状態におかれるわけです。

けれども、幼児にこわがられない様にしようとして、故意に子供にこびたり、子供の機嫌をとったり、又子供のすることに對して、全く放任したりすることはよくありません。そんなことでは矢張り幼児からの敬愛を受けることは出来ないでしょう。要は、幼児を心から愛し、幼児と共に遊び、一人々々の個性を尊重して、個別的に指導する工夫と努力を惜しまないで、忍耐強く、幼児の成長発達を見守る保育者となることです。子供には子供の世界があります。それを大人の頭だけで片付けようとして、余り功を急いだりしますと、つい叱つてばかりいる様になり、子供は段々、保育者から離れます。植物でも、暖い太陽の恵みによって成長します。子供の成長発達にとって、何よりも大切なものは、保育者の暖い愛情です。こうしたふん囲気にあつてこそ、幼児の精神の健康が保たれるのです。

保育者は、自分の性格、人々が幼児の精神の健康に与える影響の大きいことを自覚して、よりよい保育者となるように、修養に努めなければなりません。たとえ、人間の生れつき―素質的要因―は

変更出来ないとしても、修養と努力によって、保育者としての望ましい姿に近づくことは出来ますから。

五、保育者の精神的健康への方法

幼児の精神の健康を願うのでしたら、先ず保育者自身が健康な精神の持主でなければなりません。保育者も人間である限りは、一人々々異った個性を持っています。けれども、どの様な個性を持っているにせよ、いやくも保育者である限りは、健康な精神の持主であることが絶対に必要であります。

それでは、保育者が精神の健康を保ち、増進するには、どの様な点に注意したらよいでしょうか。次にその主なものを挙げて見ましよう。

1 健康な身体の持主であること。医師の検査を受け、悪い所があったなら、治さなければいけません。

2 適当なりクリエーションの時(余暇)を持ち、スポーツやその他の娯楽、趣味の生活を楽しむゆとりがあること。映画を見たり読書をしたりすることもよろしいが、戸外の運動は、内向性になり勝ちな保育者の生活を外に向けてくれますし、いつ迄も若さを保つことが出来るから、よろしいでしょう。

3 友人を作り、その助力を得ること。数人の友人を持つことはよいことです。友人は量よりも質であり、信頼出来る者を友達として選びなさい。自分の最も信頼出来る友人(或いは先輩、家族

等)に自分の悩みを打ち開けることによって、慰めともなり、又よい助言が得られるかも知れません。

4 社会に住んで、社会から離れないこと。その為にはP・T・Aの会合において、一般社会の人々と触れることもよろしいし、適当な範囲で流行にそって、服を着ることもよいでしょう。又いつも世界、国家、社会の動向等社会的問題に関心をそいで、自分の意見を持つと云うことも必要です。(社会人として正しい人生観、広い人間的教養を持つ為に)

5 心のわだかまりは発表して、速かに解消させること。しゃやくにさわる事があれば、社会的に役に立って害にならない、間接的な表現の形式を求めて、それを行いなさい。

6 自分のトラブルに関して遠慮なく専門家に相談すること。

7 個人的、家庭的或いは経済的生涯において不安のないこと。戦後社会の秩序は漸く安定したと云え、保育者の待遇は依然として改然されていない。一日も早く解決されるように努力しなければなりません。正当に主張すべきものは主張すべきですが、反面、保育者が保育者としての立場を確立する態度を持って、自らが保育の重要な意義を認識することが必要です。

8 保育者としての仕事に誇りを持つこと。一人々々の保育者が保育と云う重要な仕事に選ばれ、従事していると云う責任を自覚すること。それによって保育者に対する社会の認識を改めさせ、社会的地位の向上をはかりましよう。

9 園長が保育者に対して民主的態度で接し、又保育者同志の間が相互に明るい気持ちで尊敬しあい、協力しあうこと。園長はそれぞれの保育者が精神的健康を得るように、助けることが必要です。勿論それぞれの保育者は自分の身体的健康と精神的健康を保つために自ら努力すべきことは云う迄ありませんが、これらの問題は一人々々の保育者の個人的努力によってだけでは解決されないことも多いのです。ですから園長はそれらの保育者の個性や長所をよく理解し、各自の最大限の能力を發揮出来るようにしてやることが大切です。各々の保育者が、園長が、真に自分達を理解し、受け入れてくれていると云う確信に基づいた安定感をもって活動出来る様な状態にすることが必要です。又保育者が自分達の困難な問題や障害を安心して打開け、相談し、親しくその助力を求められる様な態度を持つことが必要です。この様に、園長と各保育者が親しみに満ちた人間関係の中にあつて始めて、保育者は他の多くの困難な条件を克服しながら、よりよい精神的健康を得ることが出来るようになるでしょう。

10 自己を尊敬し、自分を信ずること。この様な人であつて始めて、他を尊敬し、他を信ずることが出来ます。

11 一般社会が、保育者であるからと云つて、ことさらに他の人々と区別した見方をしないこと。

12 特に幼児に関心を持ち、幼児を理解する様に努めること。

13 自己を反省し、自己をまともに評価し、よりよい保育者にな

る為に、たえず自分をみがくよう努力すること。

保育者として最も大切なことは、自分の職業の偉大な価値を認識することであり、信ずることです。幼児の幼い魂をはぐくむことによって、社会は進歩して行きます。この保育の持つ重大な意義を確信して、保育者の使命観に徹することです。そうすれば、比較的、物質的には恵まれなにも拘らず、幼い生命の健やかに伸びて行くのを見ることが出来る所に、他のどの様な職業でも味わうことのない精神的な満足を得ることが出来るでしょう。

参考文献

- 1 平井信義 子供の精神衛生（「保育」第七卷第一二号、一九五二年一月）
 - 2 松村康平、幼児の精神衛生（「幼児の教育」第五二卷第七号、一九五三年七月）
 - 3 西本 脩 保育者の精神衛生（一）—保育者の悩みについての調査—（「幼児の教育」第五一卷第九号、一九五二年九月）
 - 4 宗像誠也 教師の心理（岩波講座「教育学」第二冊、一九三一年）
 - 5 西本 脩 両親から見た理想の保育者—理想的保育者の資質に関する研究—（「幼児の教育」第五二卷第九号一九五三年九月）
- （神戸頌栄保育短期大学教授）